

令和6年度（2024）芽室町立上美生小学校経営方針

上美生小学校長 三 寺 康 裕

I 学校経営理念

<合言葉>

「役割を果たし、隙間を埋め、チーム上美小 大仕事する」

人を教え育てる「教育」という大仕事を全うするには、常に自分自身が高みを目指し成長しようとする心持が欠かせない。それは、職業人としてのプロ意識であり、課せられた業務や必要と感じる業務（役割）を組織の中の一員として自覚と責任をもって果たすことである。学校という組織は、個性溢れる教師集団がお互いに得意不得意を理解し合い補い合うこと（隙間を埋める）で成り立っている。私たちは、上美生小学校の教職員として常に「チーム上美小」を意識し、目標を共有し、次代を担う子どもたちの成長に寄与できる存在として大仕事をする。

設置者、服務監督者である芽室町教育委員会の指導の下、一人一人の力を結集し本校の子どもたちを育てることに自信と誇りをもつ。そのためには、「仲間への感謝、子どもに感動」する職場づくりと、「役割を果たし、隙間を埋め合う」職場づくりを全員で実践。

～「小さな学校（複式校）のメリット」を生かす 3ワーク～

チームワーク：教職員一人一人の良さ生かす。 ⇒感謝・気遣い・思いやり

フットワーク：自分の役割を果たし、互いの業務の隙間を埋める意識。 ⇒目配り・気配り・心配り

ネットワーク：保護者・地域・関係機関との良好な関係を築く。 ⇒情報共有・情報収集・連携協働

学習面	児童・生徒の一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。
	学校行事等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 →「個別最適化学び」と「協働的な学び」の一体的な学びを構築へ
生活面	児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。
	異学年間の縦の交流が生まれやすい。 →共に助け合う児童・生徒の育成へ
運営面	全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になり、一体となって活動しやすい。
	施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。 →「お互い様」「助け合い」風土の醸成→働き方改革
その他	保護者や地域社会との連携が図りやすい。
	→情報共有による相互理解、協力体制の構築（めむろ未来学・中学校との連携授業等）
全体	児童・生徒の主体的に生きる力を育成しやすい。
	→協働体制のもと、子どもたちの未来に責任を負う教育の推進

小規模校のメリット（文部科学省他）

II 学校教育目標

- | | |
|----------------------|---------|
| ◎ よく学び よく考える子ども（知） | → 自主・創造 |
| ◎ 仲よくし 助け合う子ども（徳） | → 友愛・協力 |
| ◎ 進んでとりくみ やりぬく子ども（体） | → 主体・根気 |
| ◎ いつも明るく 元気な子ども（情） | → 明朗・快活 |

Ⅲ 目指す学校の姿

「笑顔を生み 活力にあふれる学校」

～子どもが楽しい、保護者・地域が安心、教職員にやりがい、多くの笑顔が活力に！～

Ⅳ 目指す子どもの姿（次代の地域を担うグローバルな人材育成に向けて）

「創造性豊かに主体的に学ぶ上美の子」

学年ごとのイメージ

1年	ともだちとなかよくでき 進んでかかわり、なんでもがんばる元気な子
2年	みんなでなかよくでき 自分からかかわり、さいごまでがんばる子
3年	ともだちと助け合い 仲間と協力してねばり強くやりぬく子
4年	友だちと協力し、自ら考えて根気強く行動できる子
5年	高学年としての自覚をもち、進んで考え行動し、仲間と共に解決しようとする子
6年	互いの良さを認め合い学び合い、自ら考え進んで行動し、仲間と共に解決し、諦めない子

Ⅴ 目指す教師の姿（信頼される学校をつくるために）

- 1 子どもファースト：教育への情熱に溢れ、人間性豊かで、子どもに真摯に向き合う教師。心身ともに健全であるための働き方改革。
- 2 教師力・授業力向上：教員育成指標に基づき教育のプロとして学び続ける。ジョブシャドーイング、OJTの充実。校内研修の充実や研修会参加を通して、「令和の日本型学校教育」を実践。「自走する学習者集団の育成（学び方を学ぶ）」「ファシリテーターとして機能」「3：7の学びの浸透」。学校教育指導訪問の効果的な活用と内容の充実。
- 3 学級経営：「複式校」のメリットを十二分に活かして、児童理解を念頭に、学級指導、キャリア教育に努める。寄り添う指導…良さを認め励ます指導を基盤とし、「つく指導」。
- 4 信頼される教師：服務規律の保持、教育公務員としての自覚を高め、法令遵守に努める。
(諸帳簿及び個人情報適切な管理・各種ハラスメントや体罰の撲滅・交通安全)

Ⅵ 今年度の経営の重点と具体的施策（社会に開かれた教育課程の実現に向けて）

～将来、子どもたちが社会の中で幸せな大人になるために！～

1 子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進

(1) 新しい時代に必要となる資質・能力をはぐくむ

① SDGs・ESDを意識化した体験的・問題解決的な学習活動の推進

・教科横断的な学習活動、総合的な学習、各種行事など全教育活動のバックグラウンドに関わる目標として意識付ける。

② カリキュラム・マネジメントの充実と各種調査に基づく教育課程の検証改善サイクルの確立

・育成を目指す資質能力の明確化と検査結果（全国学力・学習状況調査、各学年のテストや学力検査、学校風土調査）等の成果と課題に基づく個別の指導目標作成や学級経営の充実

③ 1人1台端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な学びの構築

・ICTチーム及び教育DX推進員を中心に、タブレット端末を効果的に活用した授業づくりの研修推進
・一人一人の思考の見える化を図った子ども同士の双方向型授業や遠隔交流授業、教育的ニーズ、学習状況に応じた

個別最適な学習の推進

・校内研修を始め、各種研修会、公開研、十勝研修センター講座等への積極的参加による教師力向上

(2) 社会にはばたく力を身に付けさせる

① 「めむろ未来学」を核とした「探究・提案・発信」型授業によるふるさと教育、キャリア教育の充実（地域資源・外部人材の有効活用）

② 特別な教育的ニーズに対応した教育

・特別支援教育を推進するための実践と指導の共通理解と、指導内容の充実と関係機関との連携・活用
・個々の実態を踏まえた適切な指導（個別の教育支援計画・個別指導計画に基づく指導）

(3) 健康でたくましい体をつくる

- ① 体力調査等の結果を活用した体力向上の取組
 - ・小中連携による体力テストの実施・授業改善 ・全学年全種目実施
- ② 食農教育を通じた食育の推進
 - ・農園活動を通じた食育、給食指導を通じた食と健康に対する意識付け及びSDG'sとの関連

(4) 豊かな人間性をはぐくむ

- ① 学校教育活動全体を通じた道徳教育の推進
 - ・「考え議論する道徳」の充実、授業参観等での道徳科の授業公開
 - ・あいさつや返事、日常生活ルールの定着や後片付け等、自ら考え行動できる児童の育成
- ② 人権教育に視点をおいた生徒指導、道徳指導
 - ・多様性の容認や個性を尊重することに対する理解を深めるための日常的な指導

2 学びの機会を保障し質を高める環境の確立

(1) 安心して過ごせる居場所をつくる

- ① いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応
 - ・いじめ対策委員会を中心に、いじめ根絶や早期発見・早期対応のできる指導体制の整備、互いを尊重できる集団づくりなど、いじめを生まない素地づくりに努める。
- ② 関係機関等との連携及び多様な学習機会の確保
 - ・子どもの諸問題等に対する関係諸機関との連携や適切な初動対応、きめ細やかで温かみのある学級経営の推進
 - ・不登校児童の支援としてICTの活用による学びの機会の保障
 - ・地域と連携した防災教育の充実（地域総合防災訓練）、交通安全指導、不審者対策、避難訓練等の安全教育の推進

(2) 子どもの学びをつなぐ

- ① 義務教育9年間をみとおした小中の連携強化
 - ・小中間での授業参観を通じた教職員の交流（乗り入れ授業含）による中1ギャップの軽減
 - ・基礎的・基本的な学力の確実な定着のための、学習規律の確立（聞き方・話し方等）
 - ・思考の時間を保証した授業スタイルの共有（学び方の定着）
 - ・小中一貫化に向けた教育課程の検証改善

(3) 信頼される学校をつくる

- ① 不祥事防止に向けた服務規律の保持
- ② 「北海道における教員育成指標」及び「研修履歴」に基づく教員の資質能力の向上（プロ意識を自覚）
- ③ 業務の見直しや精選、ICTを活用した取組を前進させ、働き方改革の一層の推進を図る。

3 地域と歩む持続可能な教育の実現

(1) 家庭や地域と連携して子どもの学びを支える

- ① 望ましい学習習慣・生活習慣の確立
 - ・ICTの活用（キュビナ、出欠連絡）、早寝・早起き・朝ご飯、あいさつの励行など、家庭と連携した取組の推進
- ② PDCAサイクルを生かし学校評価等による保護者・地域の意見を反映し学校経営改善を推進
- ③ ホームページや緊急連絡メール、学校・学級便り等を活用した積極的な情報発信・共有

(2) 活力ある地域づくりを推進する

- ① 学校運営協議会と連動した「めむろ未来学」の推進、学校支援ボランティアの活用
- ② 保小中や地域諸団体（山村協等）との連携により、各種行事の協力を推進し、地域に学ぶ。

(3) 文化施設等を活用した学校教育、社会教育を推進する

- ① 地域の自然や人材、風土を積極的に生かした、生活科や総合的な学習の創意ある教育課程の編成
- ② 地域の教育資源の活用、地域と連携した諸活動の推進、保護者や地域社会の人々と連携した活動・体験活動や行事において、芸術文化に触れたり体育施設を活用したりする機会の確保